

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05221	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	馬場 基 (国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・史料研究室長)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、木簡研究資源を質的・量的に拡充し、研究の新段階を切り開くことを最終目標としている。3つの研究目的のうち、木簡研究資源の「量の拡大」については、データベース画像相互運用のための国際的枠組みである IIF の準拠標準規格の策定をいち早く終了し、また、国内外の連携研究を加速度的に推進している点で、計画以上の研究成果を上げている。一方で、「質の多様化」という目的における分析作業での経験値の資源化に関する研究、文字資料研究をけん引する新研究の展開という目的における参加誘発型研究スキーム開発について、それぞれ進捗にやや遅れが認められるが、「量の拡大」については計画以上に進捗していることから、計画全体としては期待どおりの成果が見込まれる。